

(日置郡金峰町高橋下小路)

**位置と環境**

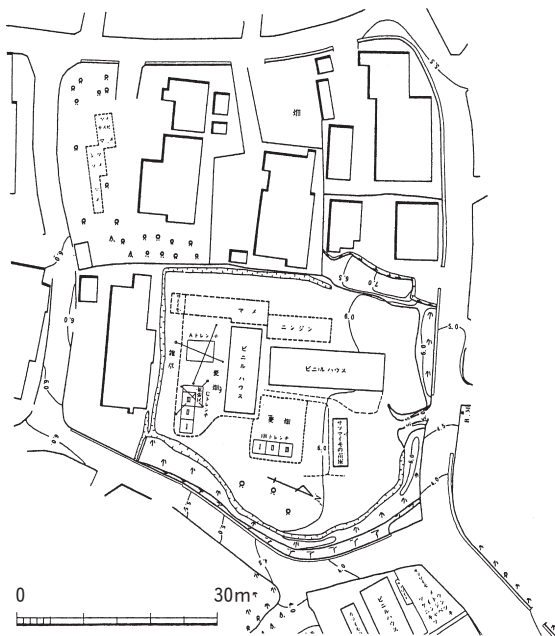
薩摩半島の西岸は、弓なりに内彎して吹上砂丘となっている。遺跡は砂丘の南端に近く、万之瀬川と支流の堀川との合流点から北々東1kmの地点、高橋集落の北辺下小路にある。砂丘の内側に続くシラス台地に立地し、標高は6mあって、前面の水田に3mの比高で望んでいる。本遺跡の南々東300mの地点に高橋貝塚がある。

**調査の経緯**

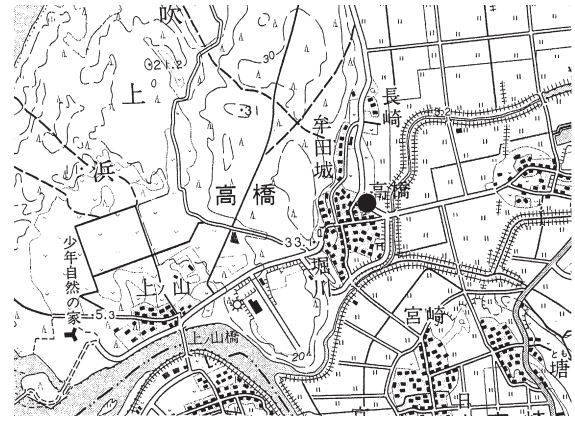
金峰町尾下の福田寺住職の桜井魯象に呼ばれて、鹿児島市に金峰町から移住している東小園武男の下小路にある旧屋敷跡の麦畑に巨石があるということで探索したことがあった。弥生時代支石墓の掌石であろうと推定したのであった。

岡崎敬の昭和50年度科学研究助成金による、「東アジアにおける九州弥生墓制の研究」の一環として前記の「下小路遺跡」の調査を行った。

遺跡は、長崎集落に通ずる道路に沿った角屋敷で、東西・南北ともに40mの略方形の現在麦畑である。調査は南側に偏った推定掌石の地点をAトレンチ、その東2.5mにCトレンチ、A地点の東北15mにBトレンチを設定して調査を行った。



第2図 下小路遺跡周辺実測図



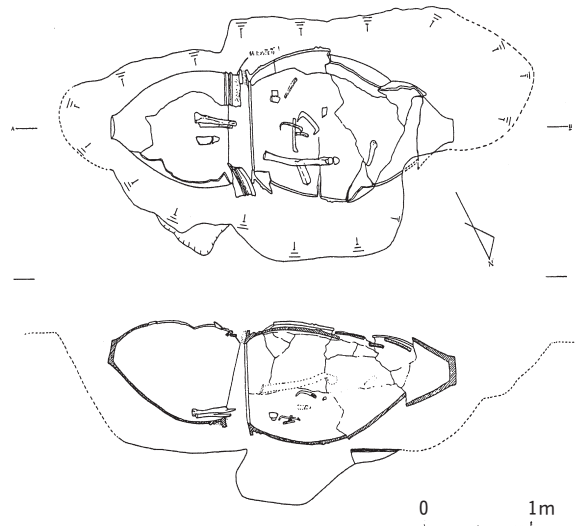
第1図 下小路遺跡の位置

Aトレンチの巨石は長さ2.23m幅1.25m厚さ30cmの溶結凝灰岩で、側面は丹塗され、付近に石庖丁の破片が出土しており、支石墓の掌石と推定されたが、盗掘によって破壊され、遺構は残存していなかった。

Bトレンチでは表層から弥生前期中葉の甕形土器口縁部破片が1片出土しただけで、下層まで後世の攪乱を受けた状態であった。

Cトレンチは掌石と思われた巨石に隣接する地点である。合口甕棺が発見された。地層は、表層は10cmの耕作土、第2層は40~50cmの黒褐色土、第3層は20~30cmの黄褐色砂層、第4層は淡黄褐色砂質の基盤である。

墓壇は3層に掘り込み、不定形であるが、西端はトンネル状に掘り込まれ、下甕の底部が挿入されて



第3図 下小路遺跡C-III合口甕棺実測図

いる。下甕はほぼ水平で、上甕は13° 傾斜して下甕と口縁部を合わせ粘土で目貼りしている。棺の主軸はN-75° -Wである。

棺内は、2個のゴホウラ製腹面貝輪をつけた成人骨の右腕が下甕から発見された。さらに下甕の口縁部からは大腿骨、上甕の口縁部近くに腓骨・脛骨および骨盤らしいものがあり、この状態から見て、この遺体は頭を下甕に挿入し仰臥屈葬の姿勢に埋葬したものとされた。

#### 遺構と遺物

##### 土器

上甕、口径49cm、胴径58cm、底径11.5cm高さ61.5cm。口縁部は逆L字状を呈し、胴部が張り底部は小さな平底で、口縁部直下に断面三角形の凸帯を2条巡らす。胎土は粒子が細かく、雲母を混じ、焼成は良好で、初めは煮沸に使用し、後甕棺としたものである。弥生時代中期後葉の須玖式土器である。

下甕、口径49cm、胴径69cm、底径13cm。口縁部はT字状を呈し、胴部は張り出し、底部は小さな平底の甕形土器で、口縁部直下と、胴部に断面三角形の凸帯を2条づつ巡らしている。胎土は少量の雲母を混じ、焼成は良好で紅褐色を呈し、刷毛目仕上げである。口縁部内側の張出部分は打欠いで、内径を大きくし、上甕の口縁内径に近付けている。弥生時代中期後葉に属し、須玖式土器である。

##### 貝輪

下甕内の右腕に装着された2個の貝輪は、ゴホウラ製の腹面貝輪で諸岡型である。風化がひどく、かろうじて計測できた一個は長径93cmであった。ゴホウラの袖と螺塔をを除き、軸に沿って縦割りし、腹

面を素材として仕上げたもので、形はD字型である。着装は螺塔部を上、湾曲部を外側にして挿入しており、今までに知られたゴホウラ製貝輪で、最も大きな部類に属する。

##### 文化の広がり

近時、弥生の埋葬として知られてきたものを上げると、高橋貝塚で前期の壺棺葬が行われていたことが明らかになっており、ゴホウラの腹面貝輪が伴出したことも明らかになった。高橋貝塚の存在する玉手神社では支石墓の掌石と思われる巨石も境内に祭られている。

隣の吹上町では、白寿遺跡で弥生前期の壺棺葬・後期の小児の甕棺葬が知られており、掌石と思われる巨石も同地域で確認されている。

同じく吹上町の入来遺跡では、昭和51年の調査で、大石の隣接地から弥生中期の合口甕棺葬遺構が発見された。吹上町・金峰町の海岸平野に分布するシラス台地は、縄文晩期以降の文化圏に属して居り、高橋貝塚に始まる弥生文化がこの地域に出現しその流れの中で、弥生前期の壺棺葬・中期の甕棺葬が出現したのである。下小路の合口甕棺葬もその一つで、須玖式ではあるが地域色のある現地生産の甕棺であり、地域のヒトの埋葬である。

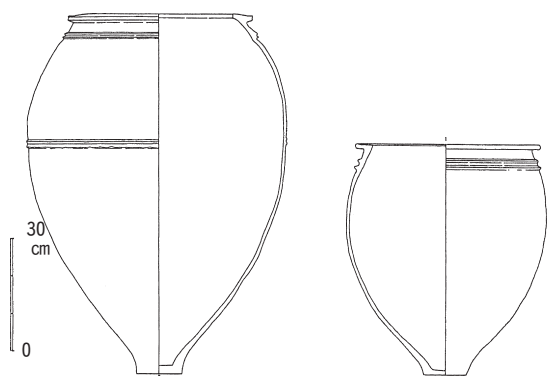
##### 資料の所在

出土遺物は、河口貞徳宅に保管されている。

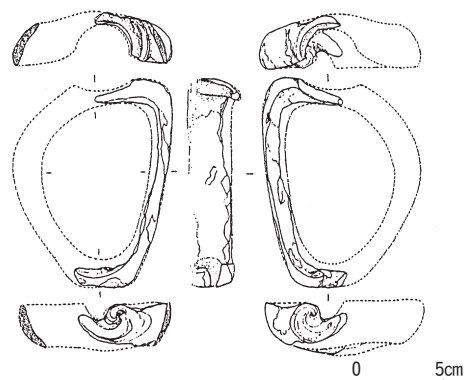
##### 参考文献

河口貞徳・旭慶男・最所大輔1976「下小路遺跡」『鹿児島考古』11号鹿児島県考古学会

(河口貞徳)



第4図 下小路遺跡合口甕棺実測図



第5図 下小路遺跡甕棺出土の貝輪